

九歴たより

No.32
2010.10

九州歴史資料館・分館行事予定 2010. 2011. 10月～3月

九州歴史資料館	行事・事業予定	
展 示	特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」11月21日(日)～1月16日(日)※11月22日(月)は開館 ※1月18日(火)～30日(日)は展示替えに伴い第1・3展示室閉室 常設展示「福岡県の通史的な展示—旧石器から近代まで—」2月1日(火)～	
講 演	開館記念イベント記念講演会：10月30日(土)「展望・大宰府研究—蔵司跡の調査から—」 於：九州国立博物館 開館記念シンポジウム：12月4日(土)「大宰府と西海道—古代の役所と人々の暮らし—」 於：小郡市文化会館大ホール 特別展講座：第1回 12月18日(土) 13:30～16:00 「大宰府の発掘」 於：当館研修室 第2回 1月8日(土) 13:30～16:00 「大宰府の仏像」 於：当館研修室 九歴講座：第1回 2月6日(日) 13:30～15:00 「博物館の展示室ができるまで」 於：当館研修室 第2回 2月12日(土) 13:30～15:30 「平塚川添遺跡について」 於：当館研修室 第3回 3月5日(土) 13:30～15:30 「宗茂と吉政—柳川の二人の大名—」 於：当館研修室 第4回 3月13日(日) 13:30～15:00 「県史編纂資料に見る福岡の近代」 於：当館研修室 第5回 3月19日(土) 13:30～15:30 「求菩提山修験道の世界」 於：当館研修室 館長講座 11/27・12/25・1/22・2/26・3/26(申し込みは締め切りました)	
発掘調査	大宰府跡蔵司地区(～3月) 首羅山遺跡(本谷地区 10～12月・11/28(土)現地説明会)	
求菩提資料館	企画展示：10月13日(水)～11月28日(日)「くぼて 森の美術館」～定行正義・作品展、清田豊城・写真展～ 市民歴史講座：12月4日(土) 13:30～15:30「北部九州の修験道」(講師：森 弘子氏) 於 求菩提資料館学習室 ミニ企画展：11月30日(火)～1月16日(日)生誕100年吉田達磨展 2月1日(火)～4月3日(日)おひな祭り	
甘木歴史資料館	企画展示：10月19日(火)～11月21日(日)第49回秋季企画展「秋月・今村のキリシタン—信仰・禁教・祈り続けて—」 企画展講演会：第1回 10月31日(日)13:30～「キリシタン考古学の成果」(講師：九州歴史資料館館長 西谷 正氏) 第2回 11月13日(土)13:30～「禁教の歴史と福岡のキリスト教」(講師：西南学院大学博物館学芸員 安高 啓明氏) 新春企画：1月5日(水)～1月23日(日)「今年の干支展」 春季節展：3月23日(水)～4月10日(日)「あ!サクラ展」	
柳川古文書館	企画展示：10月26日(火)～12月26日(日)「藩主立花家の家族と生活」 常設展示：1月5日(水)～新しい常設展示開始。 2月8日(火)より常設展示に併設して「ひな人形・さげもん」を展示する予定。 歴史文化講演会：企画展「藩主立花家の家族と生活」関連講演会開催 11月27日(土) 13:30～(開場は13:00) 於：柳川市立図書館(あめんぼセンター)2階AVホール 「大名家の家族と生活」(講師：九州産業大学教授 福田 千鶴氏) 「婚礼調度か物語る藩主夫人の暮らし」(講師：立花家史料室室長 植野 かおり氏)	

※九州歴史資料館の行事についてはホームページにて随時最新情報を提供しています。
※各館の行事の詳細については直接お問い合わせください。

福岡県の指定文化財

三沢遺跡[福岡県指定史跡]:小郡市三沢

小郡市に移転した当館のすぐ東の丘陵上には、弥生時代中期初頭を中心とする集落跡である三沢遺跡があります。この遺跡は九州縦貫自動車道関連工事により壊される予定でしたが、事前に行われた発掘調査で、極めて良好に遺跡が保存されており、また確認された集落構造と出土資料から、北部九州における弥生時代の初期農業村落の生活様式を解明できる遺跡であることが判明したため、大部分が保存されました。

今後、当館では三沢遺跡の特性を活かした事業も計画しておりますので、御期待ください。

- アクセス 西鉄天神大牟田線三国が丘駅下車徒歩5分、当館より徒歩5分
- 問い合わせ先 九州歴史資料館



九州歴史資料館

〒838-0106 福岡県小郡市三沢5208-3

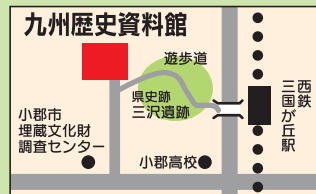
☎ 0942-75-9575
FAX 0942-75-7834

URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki>

開館時間 午前9時30分～午後4時30分
(入館は午後4時まで)
観 覧 料 一般200(150)円 高大生150(100)円
満65歳以上・中学生以下・障がい者(同伴介護者1名)無料
※()内は団体料金(20名以上)
休 館 日 月曜日
(ただし祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)

- 公共交通機関 《西鉄電車》天神大牟田線三国が丘駅から徒歩10分
《JR》鹿児島本線原田駅からタクシーで約5分

- 自動車 《九州自動車道》筑紫野I.C.から鳥栖筑紫野道路経由で約15分
《大分自動車道》筑後小郡I.C.から国道500号線・県道38号線経由で約15分
《福岡都市高速》水城出口から国道3号線経由で約25分



編集・発行 九州歴史資料館 印刷 信光社印刷(有)

九歴たより 平成二十二年十月(第三十二号)



開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」開催

九州歴史資料館のオープンを飾る開館記念特別展は、九州歴史資料館のこれまでのあゆみを踏まえて、大宰府史跡の発掘調査や仏教美術調査をはじめ九州歴史資料館がこれまで行ってきた調査・研究の成果を一堂に紹介しますとともに、発掘調査により明らかになりつつある古代九州の実像にせまります。

本展は、大宰府史跡や九州各地の出土品を中心に九州歴史資料館の40年以上にわたる大宰府史跡をはじめとした調査研究成果の集大成として「大宰府」の防衛(まもり)・政治(まつり)・宗教(いのり)を大観することができる展示となっています。さらに今回は、役所や古代都市としての大宰府だけでなく、広い意味での大宰府、つまり、かつて大宰府が統括した西海道・古代九州の実像に迫る企画です。九州歴史資料館が、名実ともに九州の歴史研究の拠点として、今後とも歩いていくことを表明する展覧会でもあります。

1300年ぶりに九州へ里帰りする平城宮跡出土の荷札木簡(重文)や九州最古の寺院の記述がある聖徳太子の伝記「上宮聖徳法王帝説」(国宝)をはじめ、九州内外から大宰府ゆかりの遺宝が集まります。鬼瓦や印章、平安初期の大宰府ゆかりの仏像が勢揃いするほか、古代九州の遺宝が一堂に会する貴重な機会をお見逃しなくご覧ください。※特別展の開催期間は平成22年11月21日(日)～平成23年1月16日(日)です。

新九州歴史資料館ではこのような活動を行います!



体験アイテムの一例（鋳型で作る和同開珎）



九歴ボランティア



大宰府史跡



蔵司地区礎石群

■教育普及とボランティア活動

新施設開館にあわせて教育普及事業が充実します!!

「学びの提供」の柱となる講座を多様化するとともに、様々な体験やバックヤード見学などが可能となります。

講座は、館長講座や九歴講座の他に、特別展関連講座等を開催します。来年度はさらに講座数を増やす予定です。

体験活動は大人も子どもも楽しめるよう、拓本採りや鋳造体験、復元パズル、古代衣装の試着等、本物志向に応えるアイテムを用意します。

バックヤードの見学は、埋蔵文化財センターの機能（発掘した遺物の洗浄、復元、実測、製図、科学的な保存といった一連の作業）を間近に見て、感じることができます。

ここで活躍するのがボランティアです。土曜・日曜・祝日は研修を重ねた 42 名のボランティアが交替でお客様を出迎え、講座や体験のお世話、バックヤードの解説を行います。体験や見学は事前申し込みなしで参加できます。

この他にも、学校対応（来館学習や職場体験の受け入れ、出前授業等）、社会貢献（高齢者や幼児の受け入れ、他機関の支援等）を通して、文化財愛護思想の普及に努めます。

■大宰府史跡の調査・研究

福岡県では昭和 43 年（1968）以来、42 年にわたって、大宰府史跡の発掘調査を継続的に行ってきました。大宰府史跡は、大宰府政庁跡（特別史跡大宰府跡）を中心に、特別史跡水城跡、大野城跡、国史跡観世音寺境内および子院跡、学校院跡、筑前国分寺跡など、福岡県太宰府市・大野城市・春日市・糟屋郡宇美町の 3 市 1 町にまたがる古代大宰府に関連する広大な史跡群によって構成されています。

当館が主体となった大宰府史跡の発掘調査は 250 回を越え、古代大宰府に関する多くの調査研究成果をあげるばかりではなく、それらの成果は、調査後の整備・活用事業にも資してきました。

平成 21 年（2009）からは、大宰府政庁跡の西側にある蔵司丘陵で計画的な調査を行っています。蔵司丘陵には、昭和 8 年（1933）に発見された 23 個の礎石列があつて、西海道各地から集められた調・庸（地方の特産物や布・鉄）を収納した「府庫」もしくは、それを管理した「蔵司」の官衙とも考えられていますが、詳細はわかっておらず、今後の調査に委ねられています。

このように、これまで積極的に大宰府の調査研究を担ってきましたが、小郡に移転した今後も、西海道（九州全域）という広い視野を持って、これまで以上に携わっていきたくと考えています。

■保存科学・修復

保存科学は文化財を未来へと伝えるために、科学的な考え方によって保存や修復を行う研究分野です。

今回の移転開館を機に、これまでの対処療法的な保存修復の考え方から文化財の劣化を未然に防ぎ、進行を抑え、再発を防ぐ「予防」を基礎とした考え方を重視した保存活動を行います。

このために、X線CTスキャナーをはじめとする最新の科学機器を整備し、文化財の構造や材質について館内で科学的に調査研究を行います。これにより劣化の早期発見が可能となり、早期処置を施すことで劣化の重症化を防止し、これまでより適確で文化財にとって優しい保存修復処置を行います。また、文化財を取り巻く湿度などの保存環境を最適にするために、建築段階から建築資材を厳選するなどの取り組みを始め、古来からの伝統的な方法に加えて、最新技術を結合させた特別収蔵庫を整備し、文化財にとって安心できる環境下で、保存をはかります。

さらに近年、文化財への災害、環境変動が発生している状況に対応し、緊急避難処置、一時保管や応急処置を行い、保存の危機に瀕した文化財を保護する活動を行います。

これらにより、九州・福岡の文化財保存の基盤形成の一翼を担っていきます。

■県史編纂資料の公開

福岡県史編纂資料は、これまで（財）西日本文化協会が設置した福岡県地域史研究所において、福岡県の委託により調査・収集・整理・補修・保存作業並びに公開を行ってきました。これまでに収集された史料は 10 万点を超え、原文書のほか、多数のマイクロフィルム、地図、写真、絵ハガキなどが、保存され、閲覧に供されてきました。

収集された資料は、近世、近代にかけての資料であり、福岡藩の武家史料、地主の家史料、庄屋史料や地図、絵図、案内図など、内容は多岐にわたっています。

九州歴史資料館では、これら福岡県史編纂資料を、福岡県地域史研究所からすべて移管することとなり、閲覧およびレファレンス業務を引き継ぐこととなりました。

新たな機能として、展示室において資料の展示を行います。これまでは、資料のうち、実物の文書や絵図を御覧いただく機会は限られていましたが、新しい展示室で、定期的に展示替えを行いながら、多くの実物資料を御覧いただく機会を提供します。

これらの活動の他にも、美術工芸資料、文献史料などの保管・管理・調査研究・展示なども行っています。「九歴だより」では、今後も調査研究の成果など、様々な活動状況をお知らせしていきます。



X線CTスキャナーを利用した調査



特別収蔵庫での環境測定



県史編纂資料（秋月諸家文書）



県史編纂資料の収蔵状況